発刊にあたって

本町は、沖縄本島の中部に位置し古くからの交通の要衝で、東シナ海に面した西海岸線に接する町であります。町の面積は、15.12 平方kmあり、その約82％が、嘉手納基地として接収されております。こうした中、まちづくりなどに多大な制約を受けながらも、定住促進事業や子育て支援、福祉施策、教育施策などを取り組んでまいりました。

また、音楽や芸能が盛んな町で、音楽祭など各種イベントが日常的に行われており、懐が深い地域コミュニティーが自慢のまちであります。

令和元年度から「第5次嘉手納町総合計画」がスタートし、「ひと、みらい輝く交流のまち　かでな」を将来像に掲げており、これまで「信頼」、「発展」、「継承」の３つを基本理念として、活力に満ちたまちづくり、人に優しいまちづくり、そして文化の薫るまちづくりを進めてまいりました。

今回の要覧では、「第5次嘉手納町総合計画」をもとに本町のまちづくりを紹介しており、「かがやく」をテーマに嘉手納町のスポット、人物、モノなどを取り上げております。

この町勢要覧を通して町の魅力がより多くの人に届き、本町に訪れていただけたら幸いであります。

嘉手納町長　當山宏

Message from the mayor

Kadena town is located in the central part of the main island of Okinawa, and has been a transportation hub throughout history as a town on the west coast facing the East China Sea. While the area of the town is 15.12 square kilometers, 82% of it is occupied by Kadena Air Base.
Nonetheless, the town has kept promoting community development, education and welfare policies for its residents to better their livelihoods even under restrictive circumstances.

The town is also known for its rich culture of music and performative arts. With various events such as music festivals held on a regular basis, exemplifying the community' s strong hospitality.
The "5th Kadena Town Comprehensive Plan" started in the first year of Reiwa, and the goal is to develop a town where its "people and future shine through exchanges."
Through focusing on "trust, development and heritage" we strive to become a truly vibrant and people-centered town.

This handbook sheds light on the town based on the "5th Kadena Town Comprehensive Plan", and covers the places, people and things of Kadena that bring out our "brightness".
We hope that this handbook becomes a guide and an invitation for people to understand the rich culture of this town.

Mayor of Kadena, Hiroshi Toyama

kadena's profile

位　置

嘉手納町は、沖縄本島の中部に位置し、東シナ海に面する海岸線沿いにあって、那覇市から北へ約23キロメートルの地点にある。北は比謝川を境に読谷村に、南東部は嘉手納飛行場内で北谷町、沖縄市と境界を接している。

町　章

「かでな」の頭文字を飛鳥のイメージに図案化し、町民の親和と団結を表すと共に町勢の向上発展を単純明快に象徴化したものです。
（昭和48年5月17日制定）

町の概要

面　積	15.12平方km
人口密度	1平方kmあたり886.7人
世帯数	5,654世帯
人　口	13,406人

（令和2年12月31日現在）

歴　史

嘉手納町は戦前、北谷町の一行政区域で、沖縄本島のほぼ中間という地理的条件に恵まれていたため、県営鉄道嘉手納線が運行する陸交通路の要衝にあって県立農林学校をはじめ、青年師範学校、警察署、沖縄製糖株式会社嘉手納工場等が所在し、中頭郡における教育、文化、経済の中心地としての役割を果たしていた。沖縄八景に数えられた風光明媚な比謝川には、県下各地から汽帆船が比謝橋付近まで出入りし、中頭郡における集散地としても盛んなところで、人、自然、産業の調和のとれた町として発展を遂げてきた。

しかし、昭和19年日本陸軍沖縄中飛行場が建設されたこともあって、第2次大戦における米軍の沖縄本島最初の上陸地点となり、その集中砲火はし烈を極め、住居をはじめ、生産施設や貴重な文化遺産のすべてを破壊され、文字どおり焦土と化し、昭和20年8月15日の終戦を迎えるに至った。

戦後は、昭和23年4月頃まで、嘉手納飛行場内の部分的通行が可能であったが、その後、米軍の飛行場管理が強化され、全面的に通行立入が禁止されたため、村域が完全に二分された。このため、昭和23年12月4日付けで分離独立し「嘉手納村」としての第一歩を踏み出した。ところが、分村まもない昭和25年、朝鮮戦争の勃発によって米軍は嘉手納飛行場を「極東最大の空軍基地」として重要視し、遂年整備拡張され、昭和42年には4000メートル級の2本の滑走路を完成させ、実に町面積の82％にのぼる膨大な面積が同飛行場や嘉手納弾薬庫地区として接収され、住民は残された18％のわずかな土地での生活を余儀なくされた。このため地域活性化の主柱となる生産活動の基盤整備やまちづくりなど大きな制約を受け、恒常的に発生する航空機騒音等もあって町の衰退の要因となり、「基地の島、沖縄の縮図」といわれてきた。

本町では、広大な米軍基地の所在による閉塞感を緩和し、町の活性化を促進するため、沖縄米軍基地所在市町村活性化特別事業、通称「島田懇談会事業」により、総事業費218億円余をかけてタウンセンター開発事業、マルチメディア関連企業誘致事業、総合再生事業を実施し、平成20年3月に完成した。